

令和 5(2023)年度 第 2 回名桜大学 FD 研修会 (テーマ:高大接続) 報告

第 2 回名桜大学 FD 研修会が開催され、その要点を報告する。

開催日時：令和 5 年 8 月 25 日(金) 13:00~14:30

「大学全入」時代を迎え、高等学校と大学との接続についての円滑かつ効果的な移行が問われてきている。高大接続とは、大学進学希望者が高校教育から大学教育への円滑な移行ができるよう、高校・大学が連帯して責任を果たすこととある(文科省 2014)。大学教育の質の保証、大学入試の抜本的改革など大学を取り巻く環境は喫緊の課題を抱えている。既に学力抜きの入学者選抜を行なっている大学が 500 以上とも言われ、誰でも大学には簡単に入れる状況になりつつあり、大学生活や学習への取り組みに大きな課題を抱える状況をきたしている。このような背景により、高大接続の重要性が深まり、高・大関係者が十分に協議・研究しいずれか双方の問題ではないことを強く認識することが必要となってきている。

今回の FD 研修会では、このような課題の解決に向け、高大接続をテーマに 3 者より課題の提言やプログラムの成果についての報告がなされた。プログラムは以下と通りである。

1. 名桜大学の入試改革を踏まえた高大接続の重要性 -リメディアル教育と学習支援の見直し- (木村 FD 委員長)
2. 高大接続プログラムの令和 4 年度の実績と令和 5 年度の計画 (佐久本リベラル機構長)
3. 新入生学力調査の結果を活用した自然科学特別講義(統計学基礎) (リベラル機構高安先生)

1) 「名桜大学の入試改革を踏まえた高大接続の重要性 -リメディアル教育と学習支援の見直し-」

木村先生より、はじめに高大接続とはどのようなのかについて説明がなされ、その旨を経て「高校教育の改革」として学習指導要領の改訂の考え方、そして学力の三要素と大学入試との関係についての説明がなされた。大学全入時代が到来し、学力に困難を抱える学生をどう支援するのか? について問いをたて、入試改革についての説明がなされた。全国的に一般入試離れが進み、総合型選抜・学校選抜型入試にシフトする傾向が進み(私大型)、本学も同様な傾向になってきている。また、地域格差解消のために地域枠を設けるなどの傾向も強まっていることの説明もなされた。

続いて、名桜大学の高大接続についての説明がなされ、高大接続勉強会の重要性について「粘り強く、高校と大学、大学と社会が相互理解をし続けていく場が必要」「高校側は、学生一人ひとりが大学で成功(失敗)しているかを知りたがっている。それは高大接続の改善にもつながる」「さらに、社会に出た卒業生の追跡調査結果も高大接続の改善に役立てることもできる」ことの説明がなされ、定期的な高大接続勉強会の実施についての重要性に関する提言がなされた。

2) 「高大接続プログラムの令和4年度の実績と令和5年度の計画

佐久本先生より、名桜大学高大接続プログラムの紹介、高大接続に関する令和4年度計画と行動計画、令和4年度の実績、高大接続に関する令和5年度計画と行動計画、さらに令和5年度の計画のそれぞれ全5つの項目について説明がなされた。最初に名桜大学の高大接続プログラム7カテゴリー33プログラムについての紹介があり、それぞれ学生募集活動、入学者選抜、入学前教育、学力検査、初年次教育プログラム、学習支援センター、点検・評価の内容に関し順序立てて説明がなされた。その後、高大接続に関する令和4年度の計画と行動計画の説明から、実績について入学前教育（高大接続、入学前学習：ラインズ、入学前特別講座）と入学後の学力調査（新入生学力調査：GPS-Academic、新入生学力調査：英語・数学）の説明があり、続いて高大接続に関する令和5年度の計画と行動計画の説明、最後に令和5年度の計画についての説明がなされた。令和5年度の計画としては、例は4年度のほぼ同等であるが、今後は学習センターにおけるリメディアル教育機能の強化が課題であるとの提言があった。

3) 「新入生学力調査の結果を活用した自然科学特別講義(統計学基礎)」

高安先生より、最初に本学におけるリメディアル教育の一環として実施している自然科学特別講義「統計学基礎」科目の設定の経緯についての説明がなされ、その後自然科学特別講義の実施に関する成果について説明がなされた。自然科学特別講義では、数理系科目を苦手とする学生を対象にMSLCのピア・ラーニングの活用やMSLCとの効果的な連携を実施することで着々と成果を上げていることや課題などが報告された。また、最後に高大接続についての検討課題について、①入試において、APの理解を十分評価することは難しい。②学習困難な学生を受け入れている。特別な配慮を要する学生への対応。③学習困難な学生を入学させている以上、必要な支援をやる責任がある。などの意見の提示がされた。

最後に、高校側も入れて終わりという意識を改革し、高大接続における「相互理解」の実効性を担保するため方策・手段を引き続き検討していくことが必要であると考えられた。

参考：文科省：「大学全入」時代における高等学校と大学との接続について

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afieldfile/2014/07/31/1265452_001.pdf (参照 2023-09-02)

